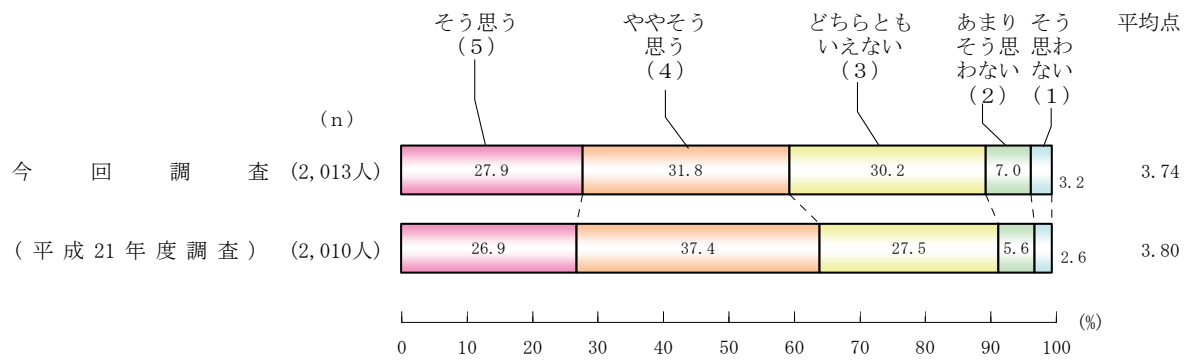
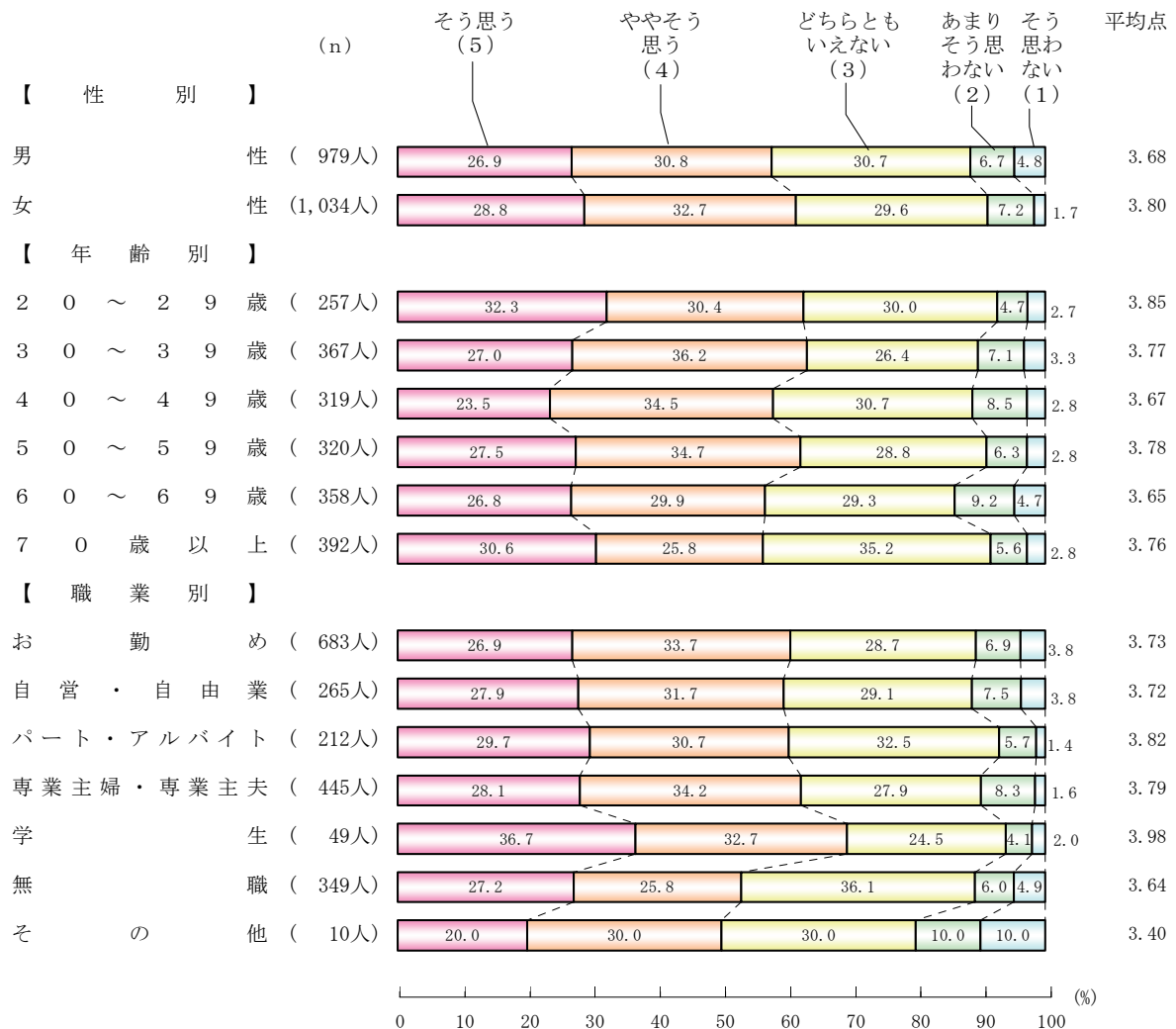


Q6 (g) 裁判の手續や内容がわかりやすくなる

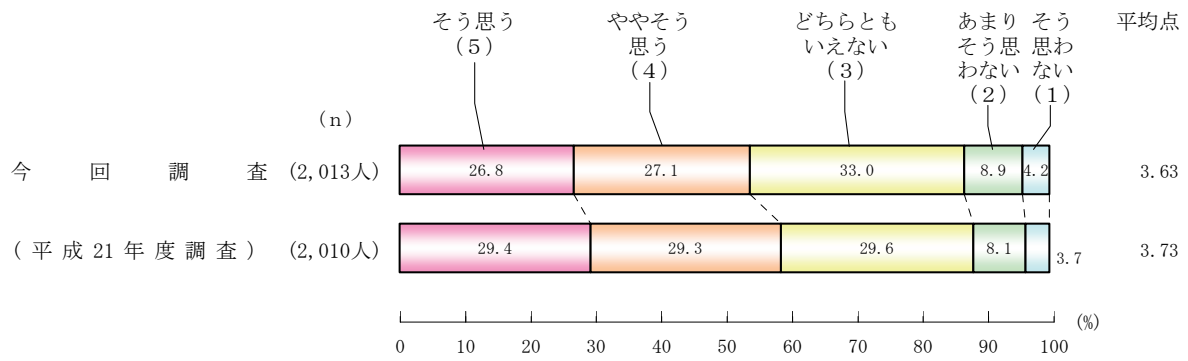


裁判員制度の実施により『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は59.7%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は10.2%であった。平成21年度調査と比べて、『そう思う』が4.6%減っている。

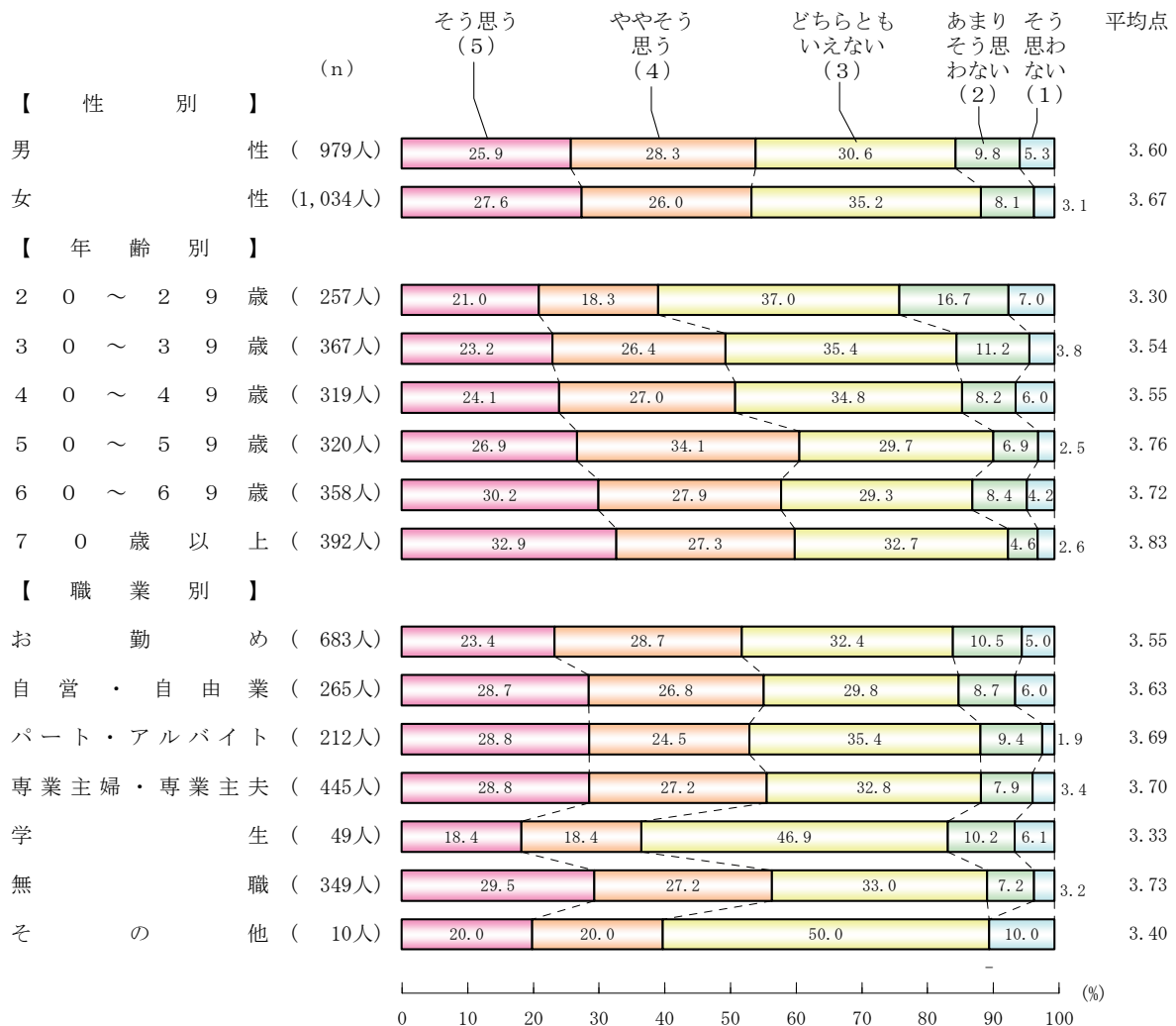


『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・年齢別では大きな差はみられない。職業別にみると、無職で低くなっている。

Q6 (h) 裁判が迅速になる

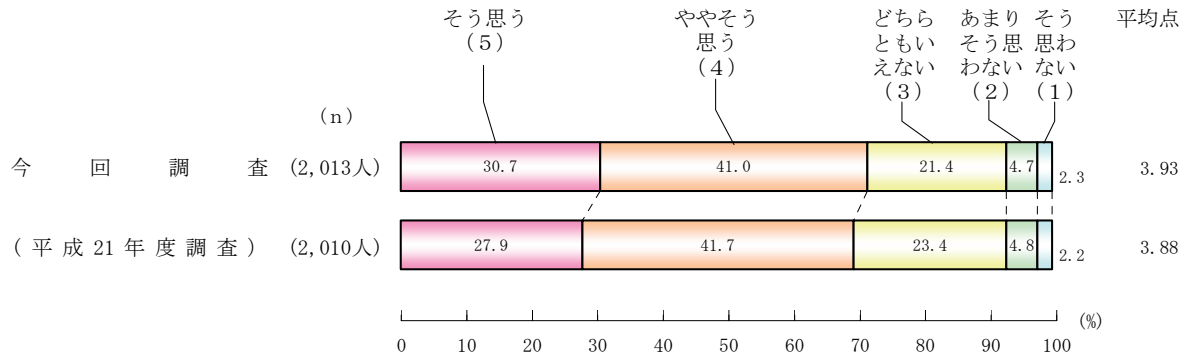


裁判員制度の実施により『裁判が迅速になる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 53.9%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 13.1%であった。平成21年度調査と比べて、『そう思う』が 4.8%減っている。

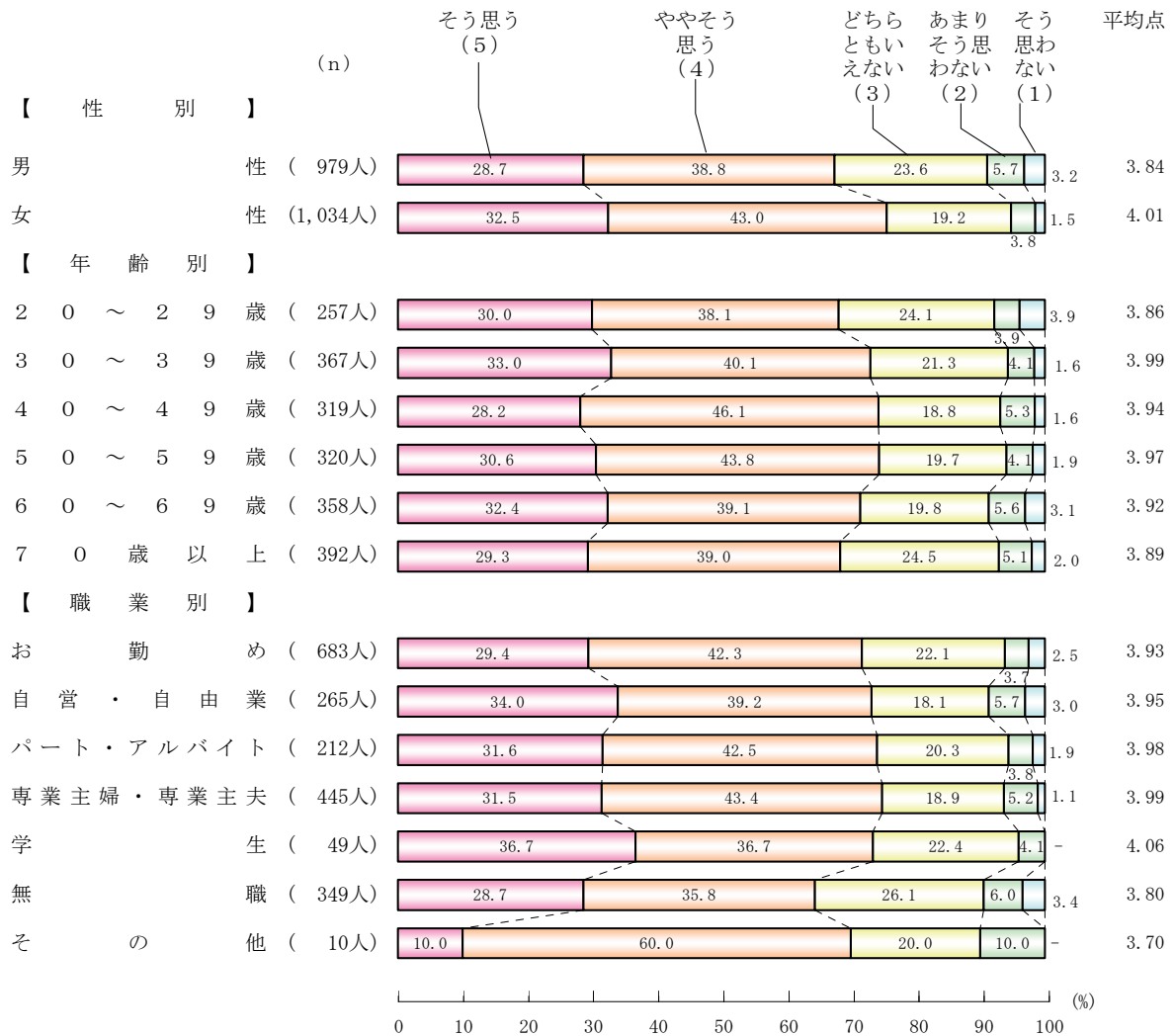


『裁判が迅速になる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別ではほとんど差は見られないが、年齢別にみると、20代で低く、50代で最も高い。職業別にみると、学生で低くなっている。

Q6 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる



裁判員制度の実施により『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は71.7%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は7.0%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

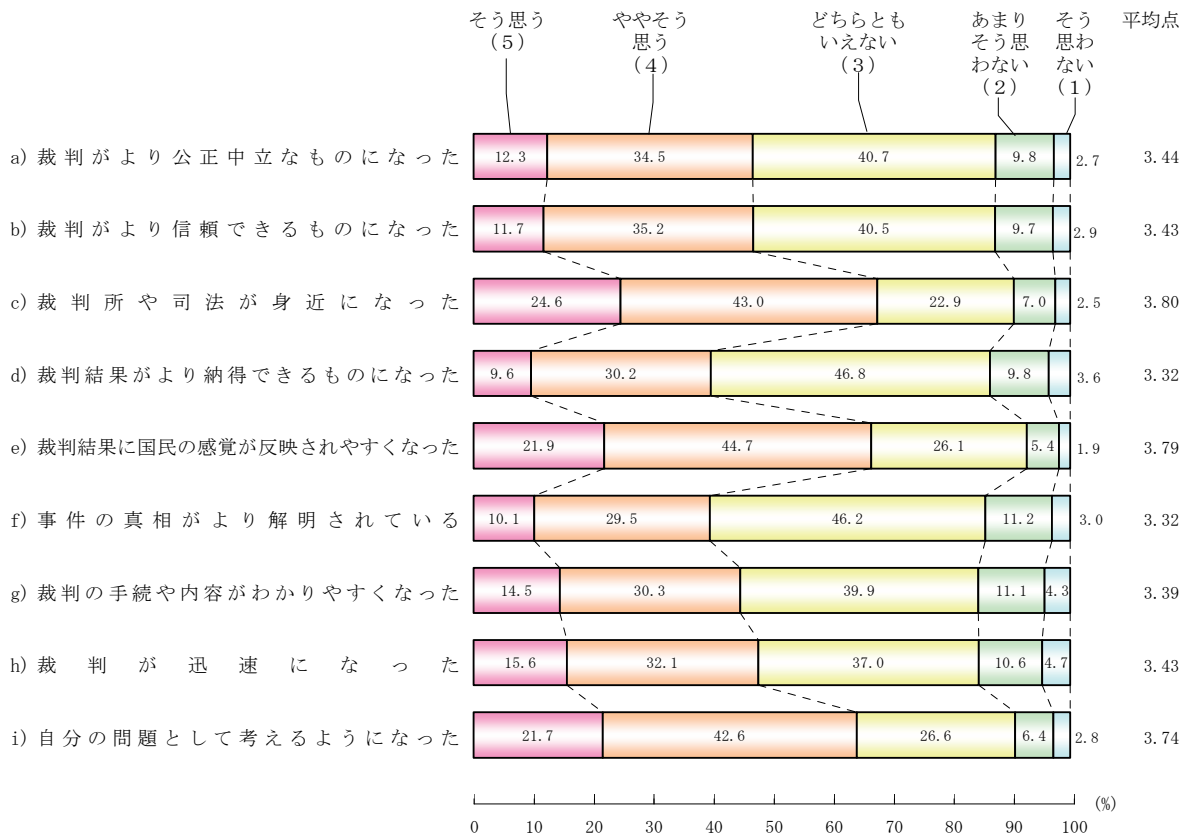


『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別では女性で高く、年齢別では大きな差はみられない。職業別では無職で低くなっている。

7 現在実施されている裁判員制度の印象

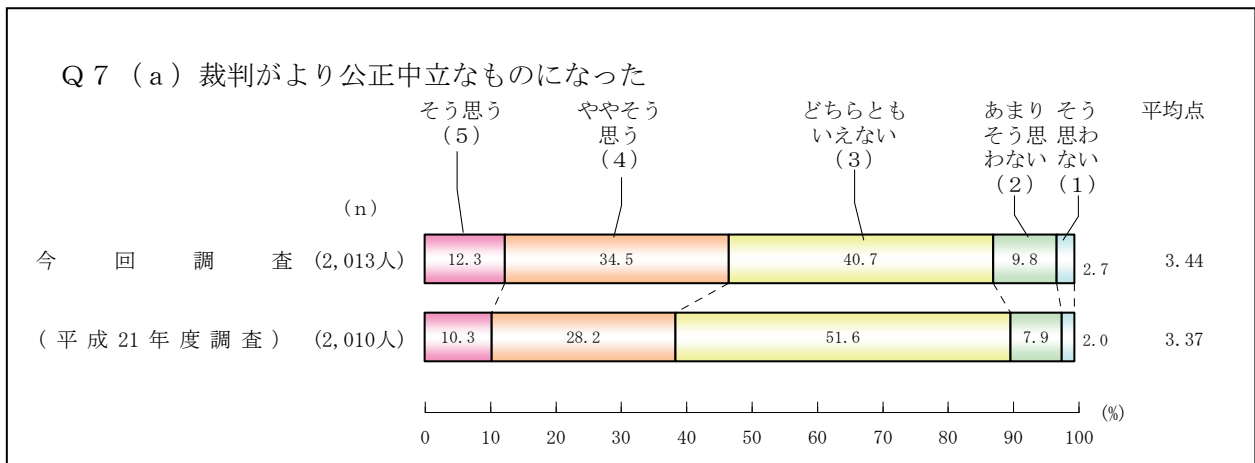
Q7 [回答票7] あなたは、現在実施されている裁判員制度について、どのような印象を持っていますか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=2013人)

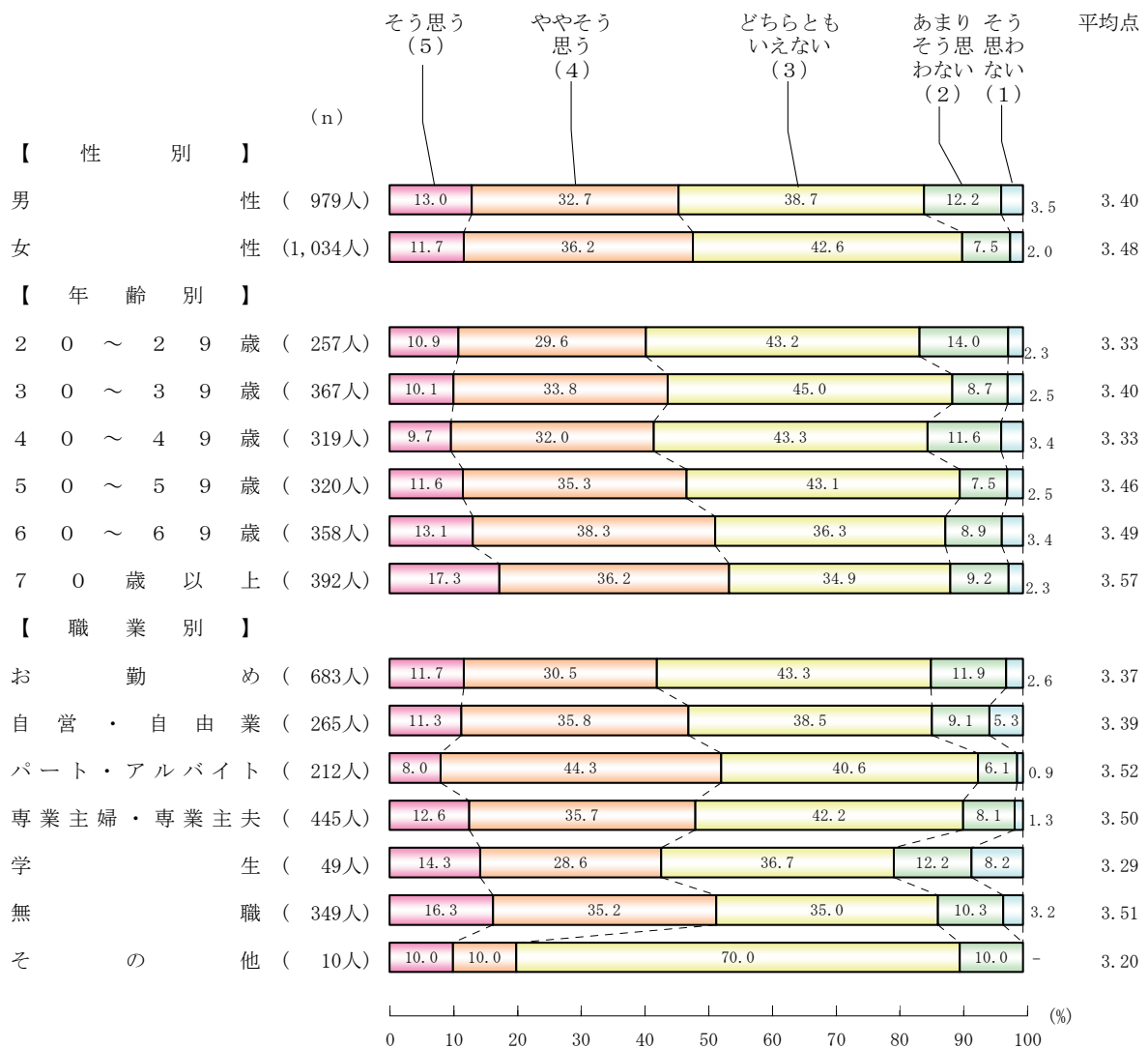


* 平均点は「そう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

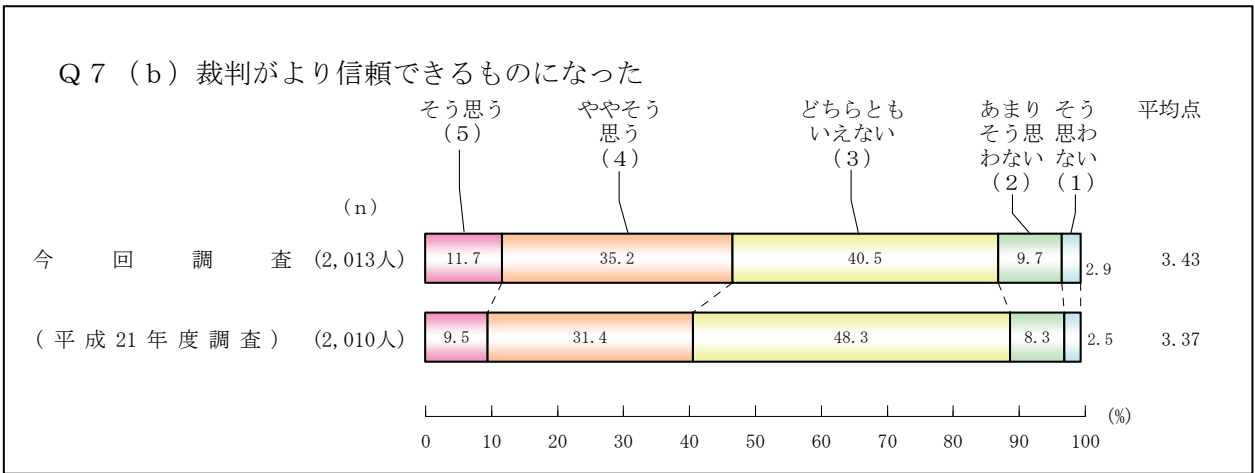
現在実施されている裁判員制度について、どのような印象を持っているか、9項目の内容について聞いたところ、平均点が最も高かったのが『裁判所や司法が身近になった』(3.80点)、以下、『裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなった』(3.79点)、『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』(3.74点)、『裁判がより公正中立なものになった』(3.44点)、『裁判がより信頼できるものになった』(3.43点)、『裁判が迅速になった』(3.43点)、『裁判の手続や内容がわかりやすくなった』(3.39点)、『裁判の結果(判断)がより納得できるものになった』(3.32点)、『事件の真相がより解明されている』(3.32点)となっている。



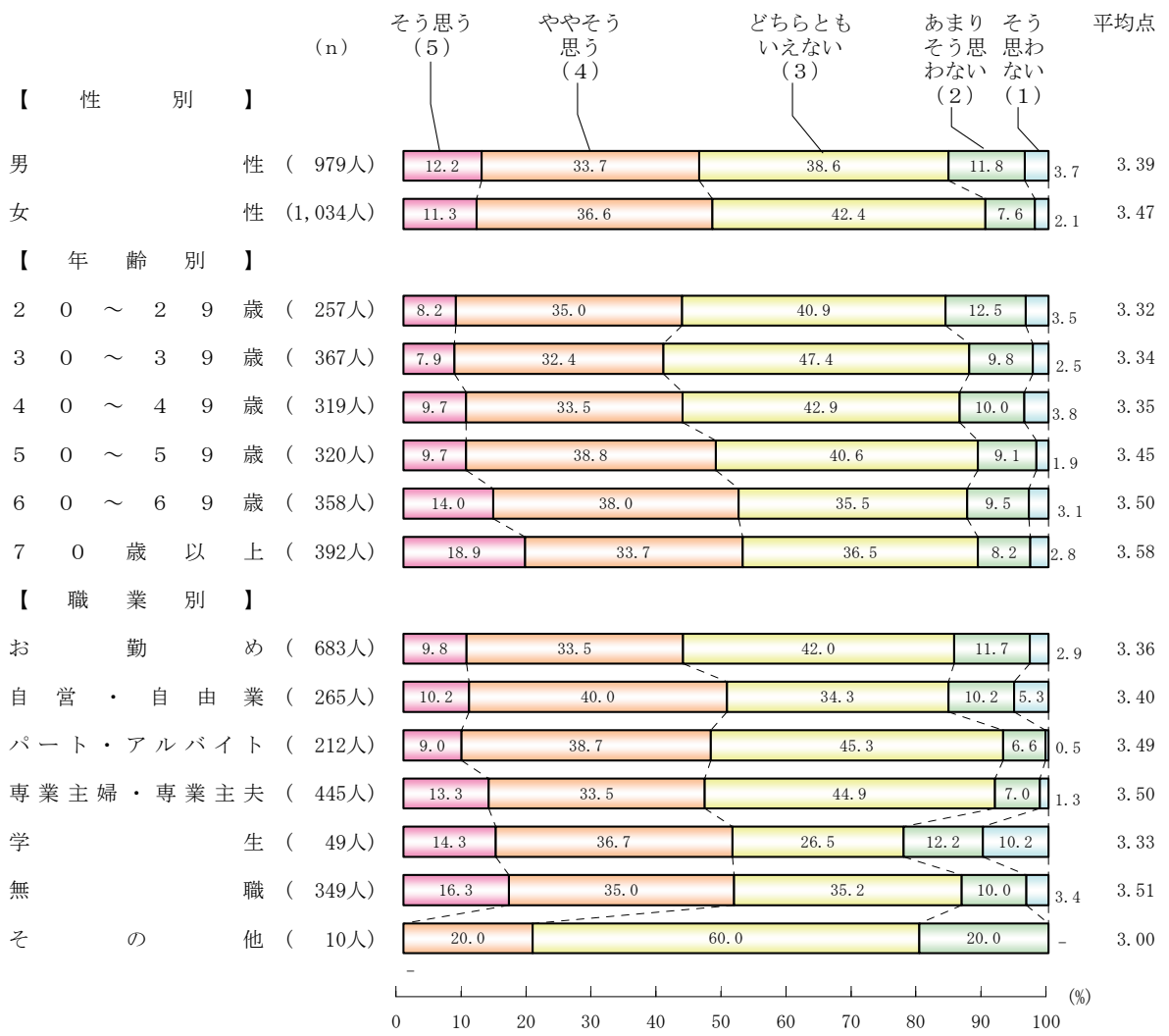
裁判員制度実施後の変化として『裁判がより公正中立なものになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は46.8%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.5%である。平成21年度調査と比べて、『そう思う』が8.3%増えている。



『裁判がより公正中立なものになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別では大きな差はなく、年齢別にみると、70歳以上が最も高く、20代が最も低い。職業別にみると、お勤めが最も低い。

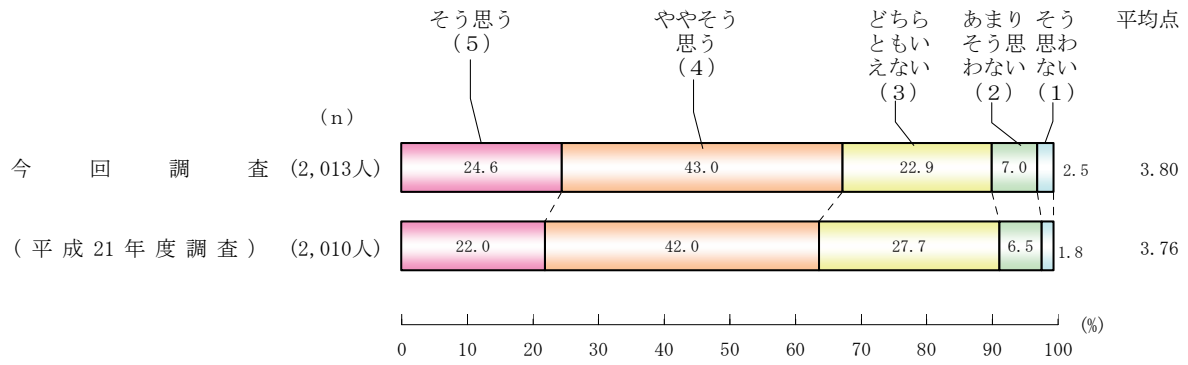


裁判員制度実施後の変化として『裁判がより信頼できるものになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は46.9%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.6%である。平成21年度調査と比べて、『そう思う』が6.0%増えている。

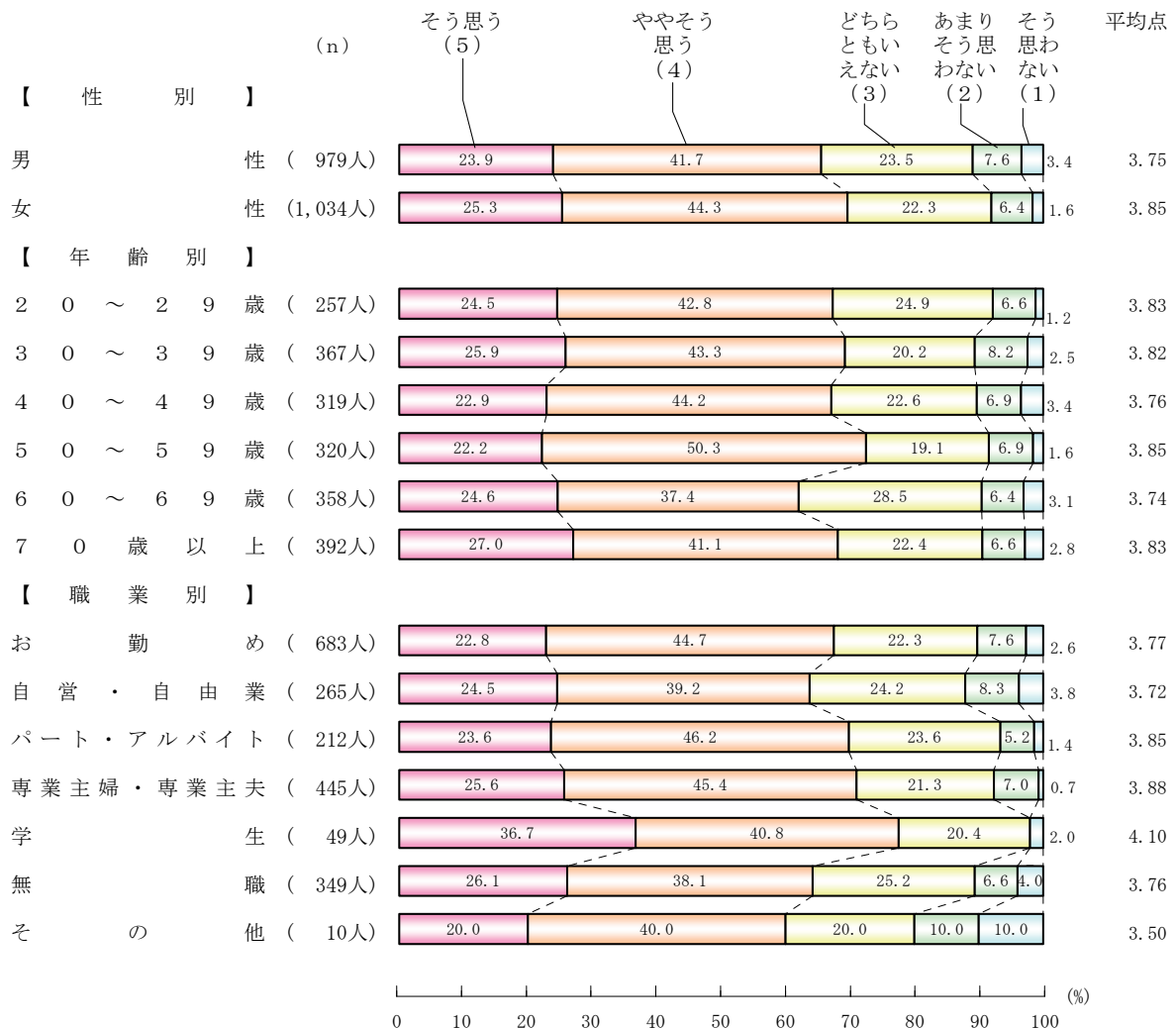


『裁判がより信頼できるものになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はなく、年齢別にみると、30代が最も低く、70歳以上が最も高い。職業別にみると、お勤めで低くなっている。

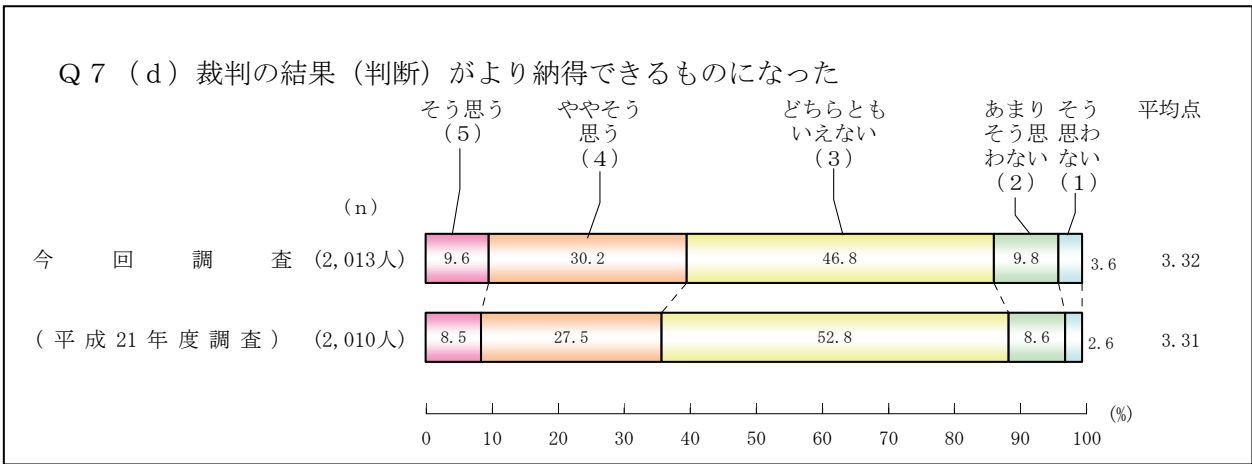
Q7 (c) 裁判所や司法が身近になった



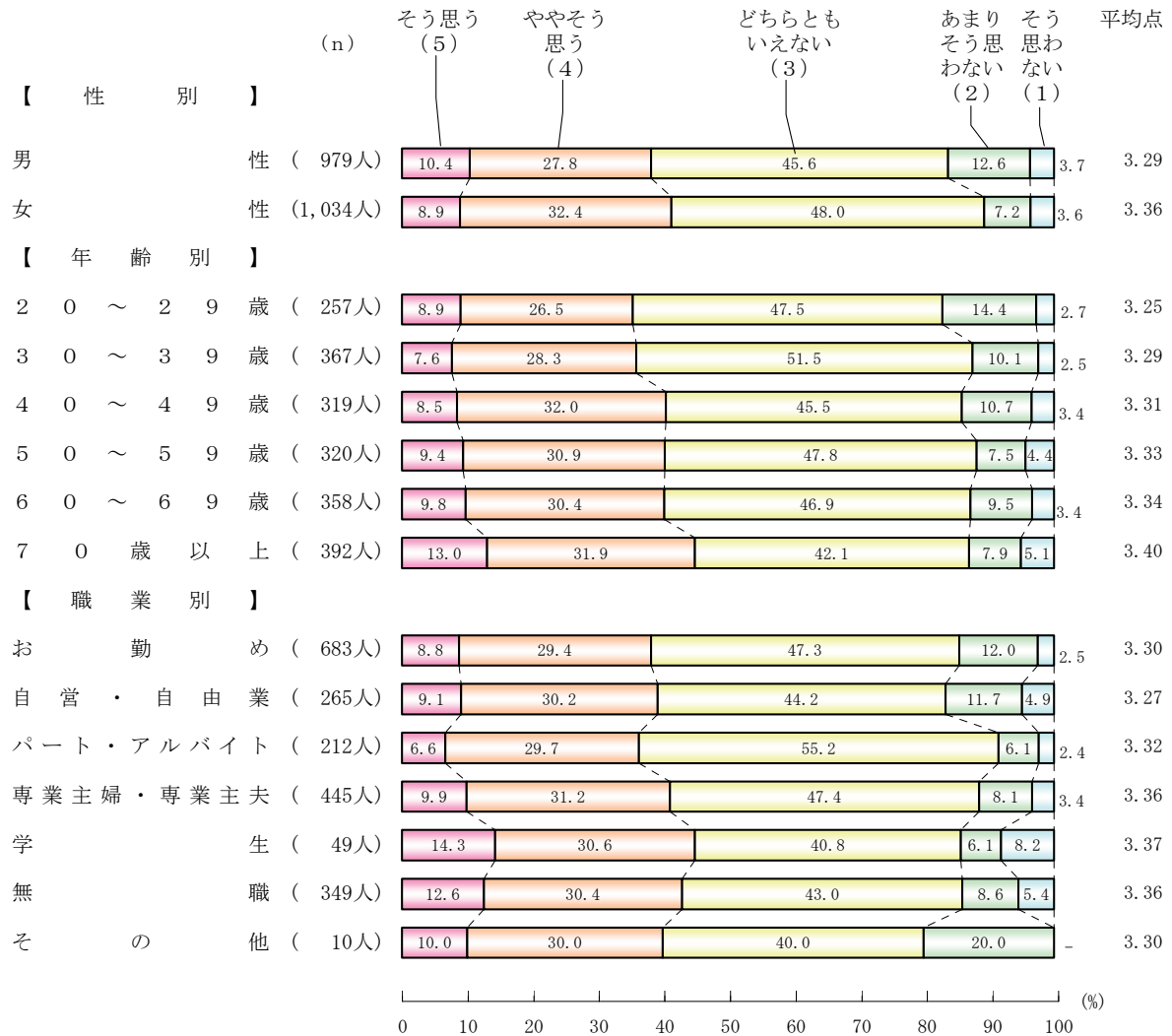
裁判員制度実施後の変化として『裁判所や司法が身近になった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は67.6%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は9.5%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



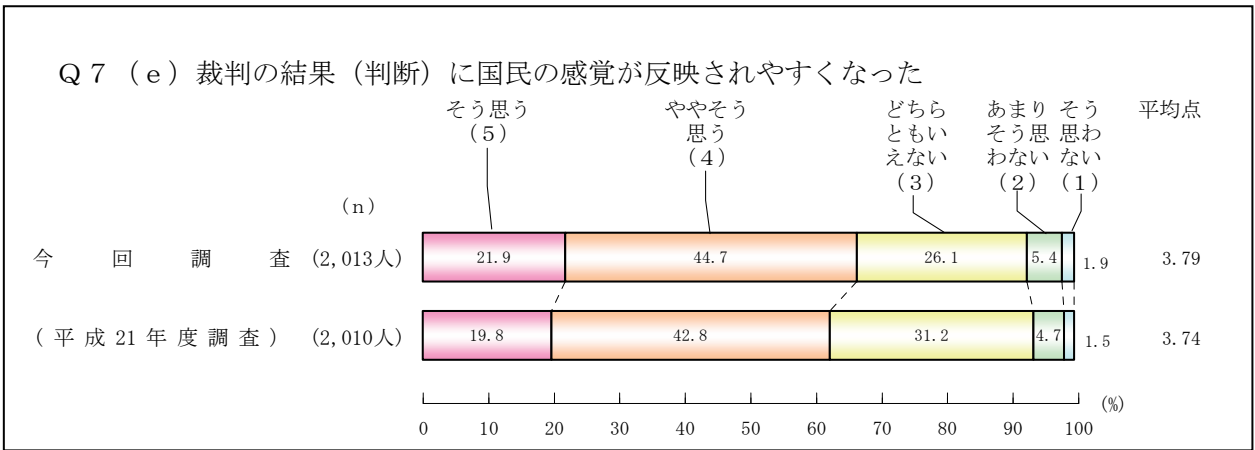
『裁判所や司法が身近になった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はない。年齢別にみると、50代で高く、60代で低くなっている。



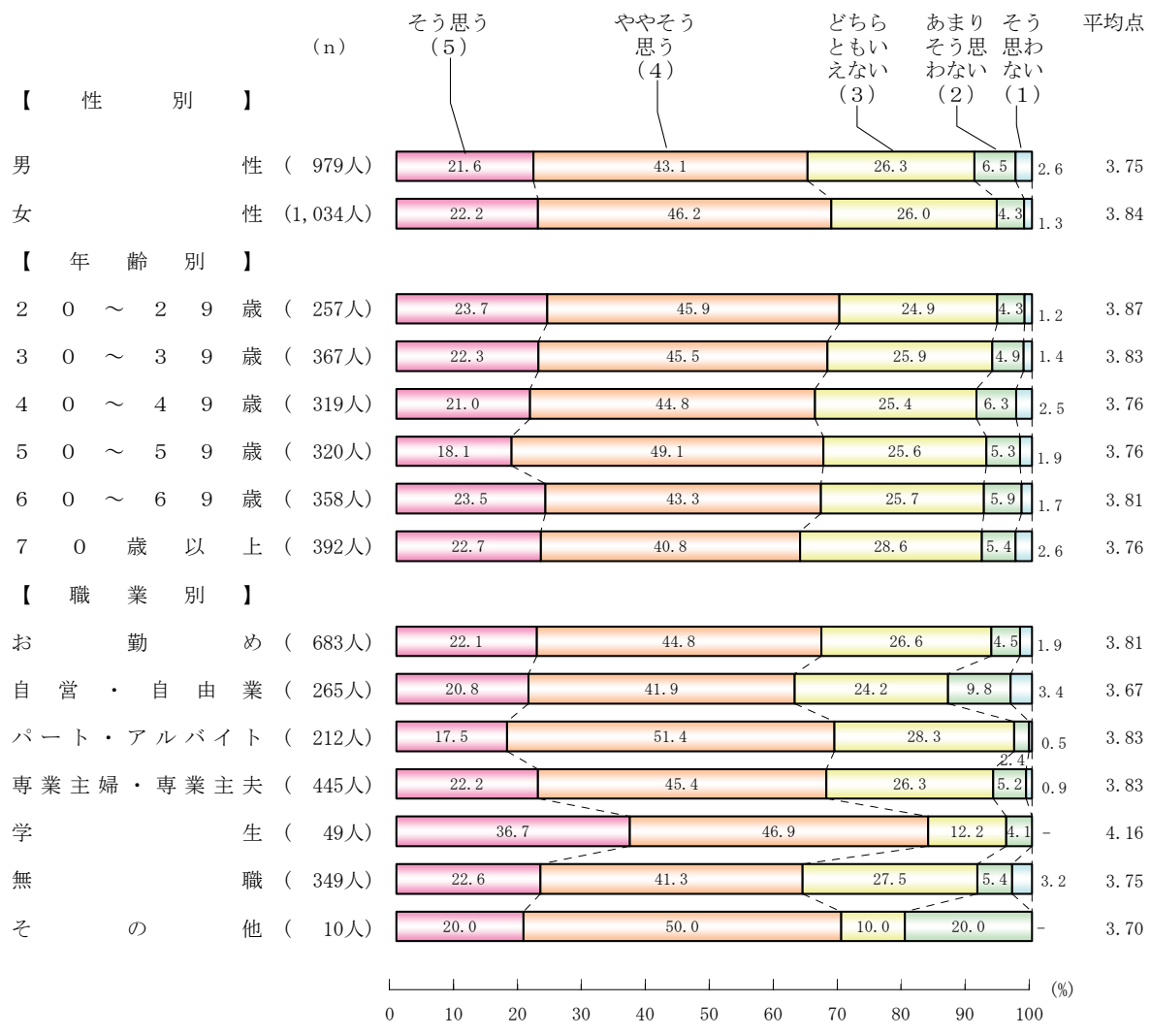
裁判員制度実施後の変化として『裁判の結果 (判断) がより納得できるものになった』という印象では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は39.8%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は13.4%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



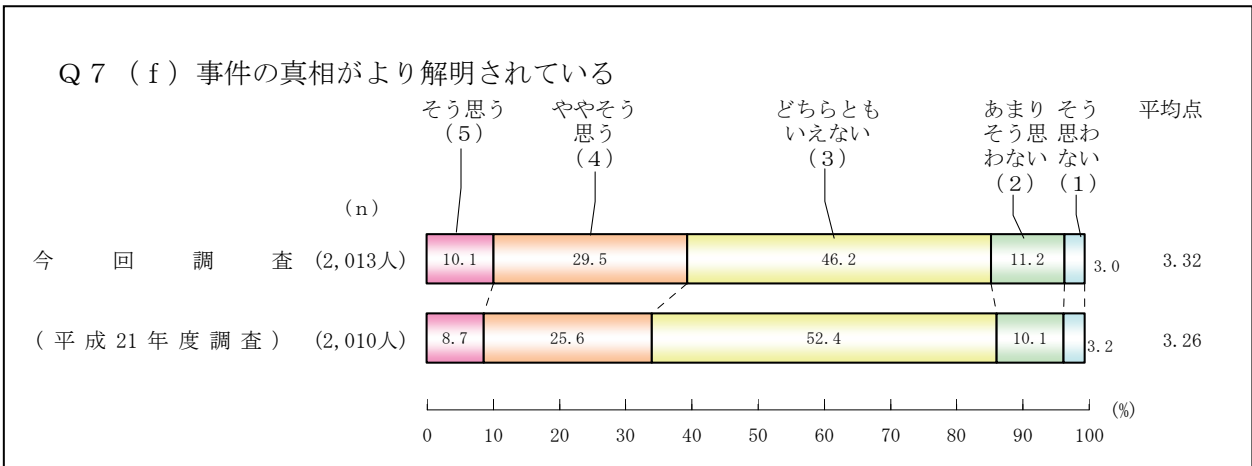
『裁判の結果 (判断) がより納得できるものになった』という印象について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は、男女別・職業別に目立った差はない。年齢別にみると、70歳以上が最も高い。



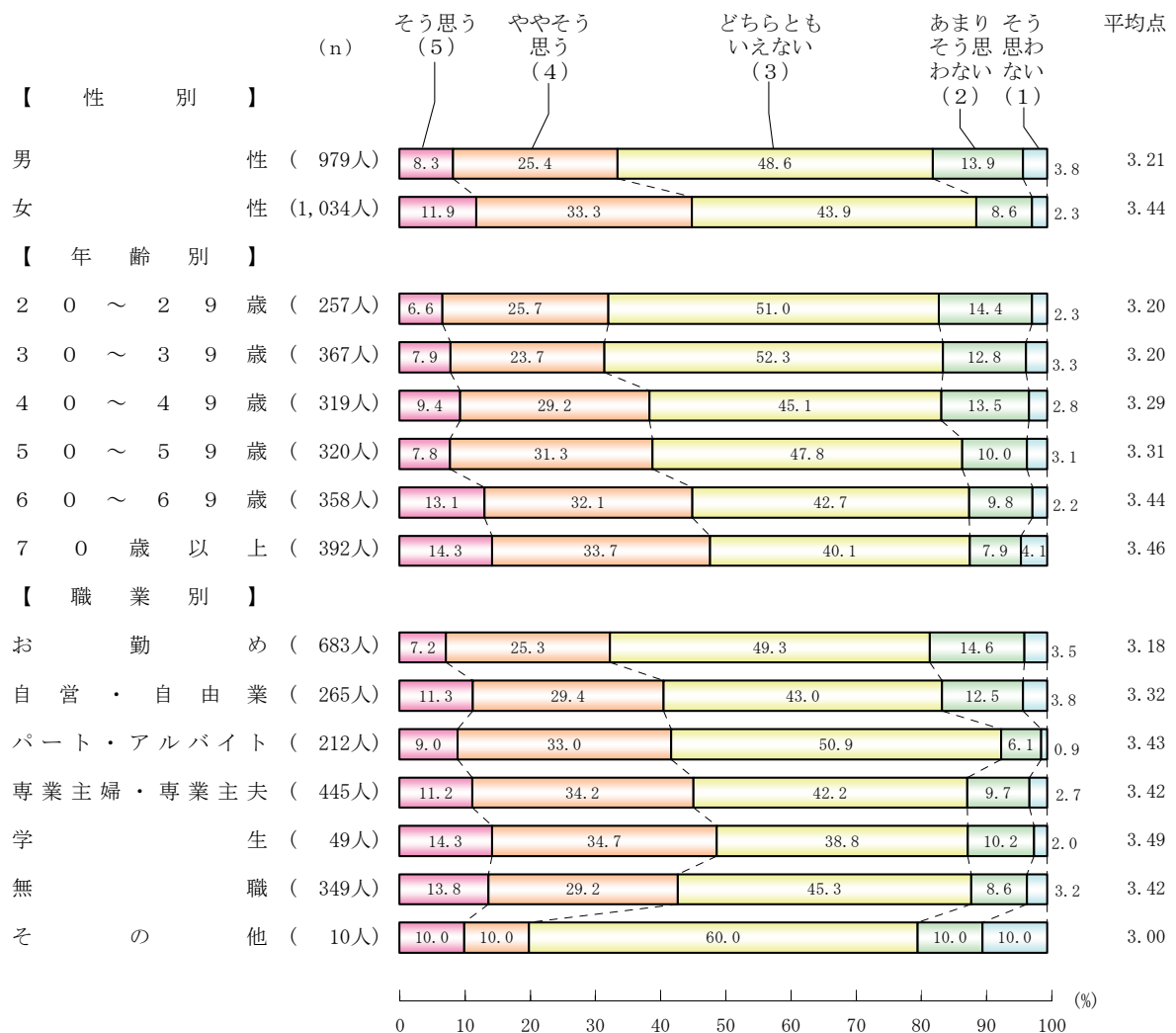
裁判員制度実施後の変化として『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 66.6%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 7.3%である。平成21年度調査と比べて、『そう思う』が 4.0%増えている。



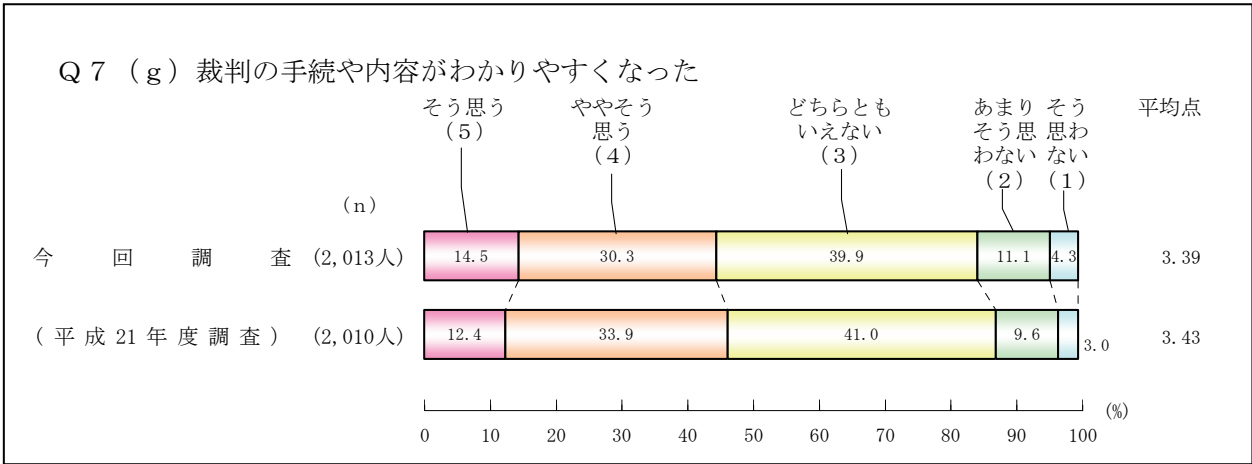
『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・年齢別では大きな差はない。職業別にみると、学生で高くなっている。



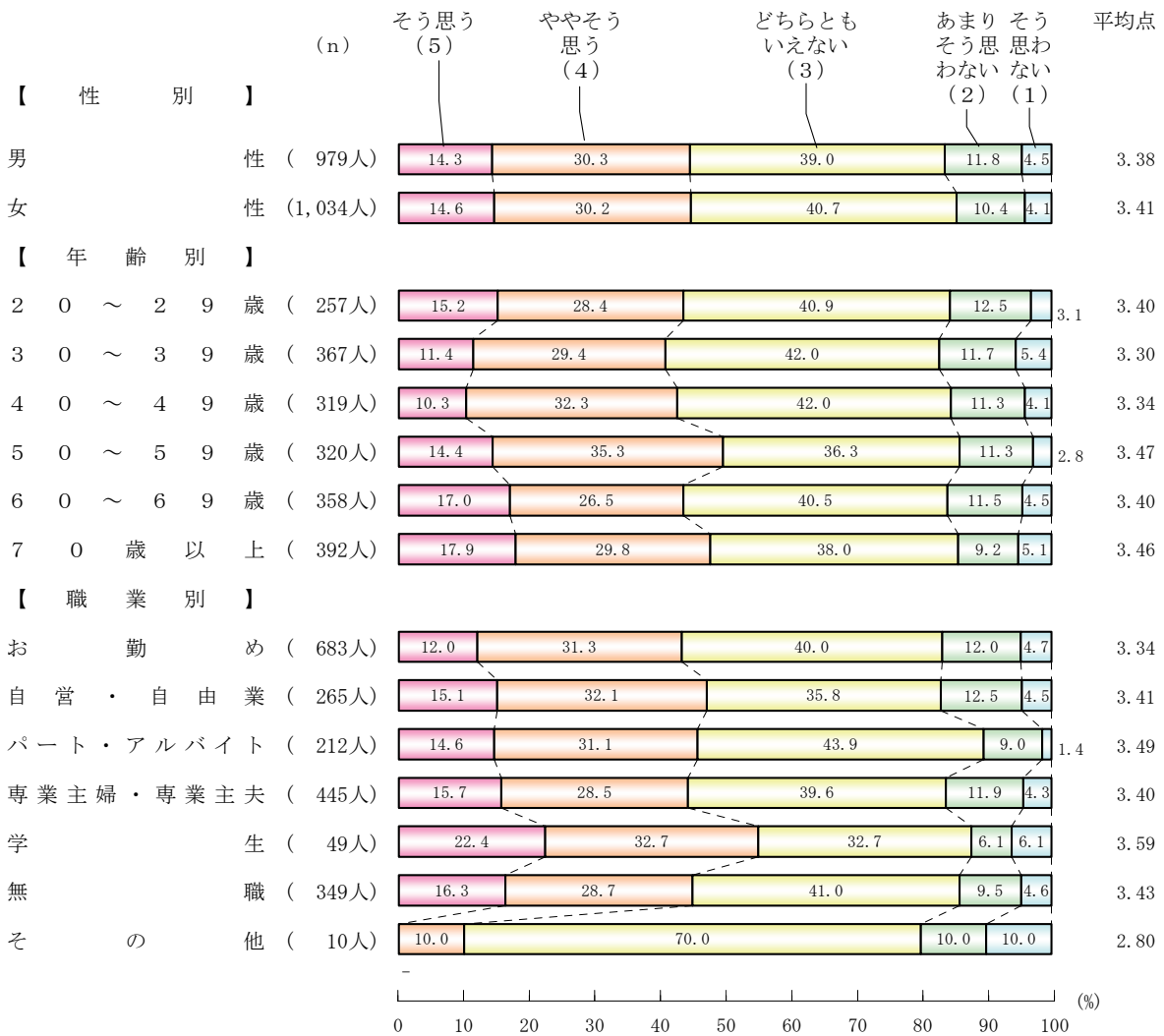
裁判員制度実施後の変化として『事件の真相がより解明されている』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 39.6%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 14.2%である。平成21年度調査と比べて、『そう思う』が 5.3%増えている。



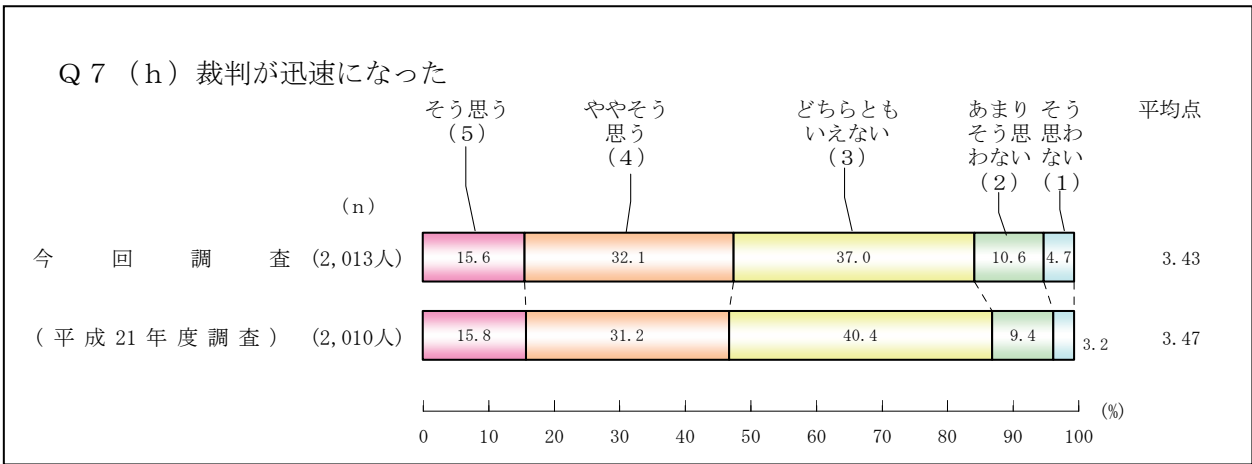
『事件の真相がより解明されている』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、女性で高く、年齢別にみると、20代・30代で低く、60代・70歳以上で高い。職業別にみると、お勤めで低くなっている。



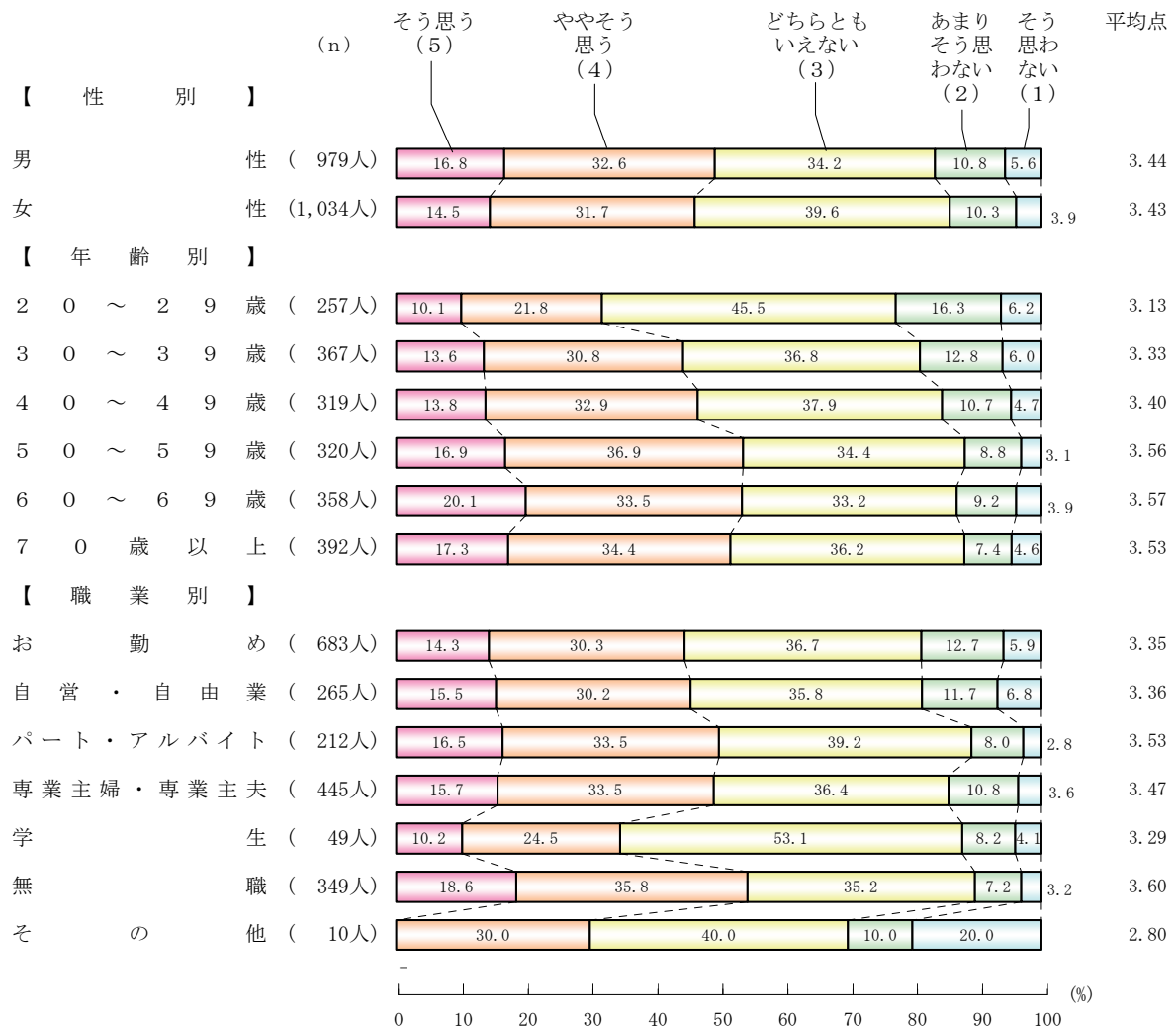
裁判員制度実施後の変化として『裁判の手續や内容がわかりやすくなった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は44.8%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は15.4%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



『裁判の手續や内容がわかりやすくなった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・年齢別にみても各層の間に目立った差はない。

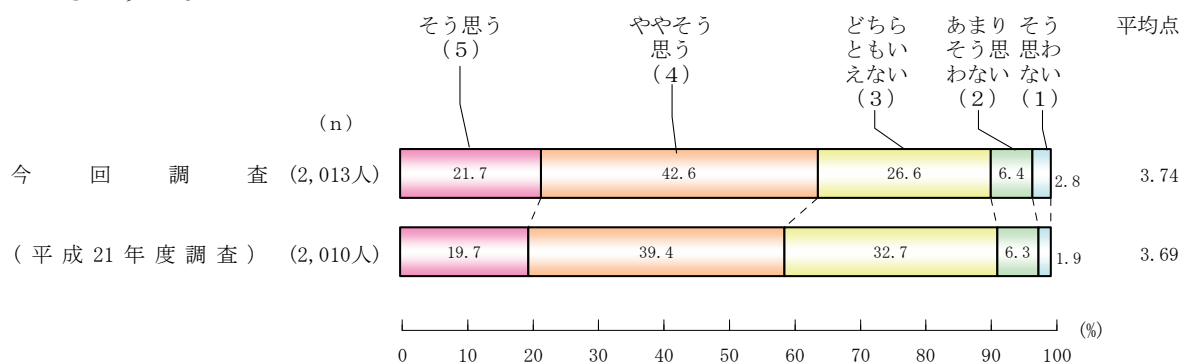


裁判員制度実施後の変化として『裁判が迅速になった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 47.7%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 15.3%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

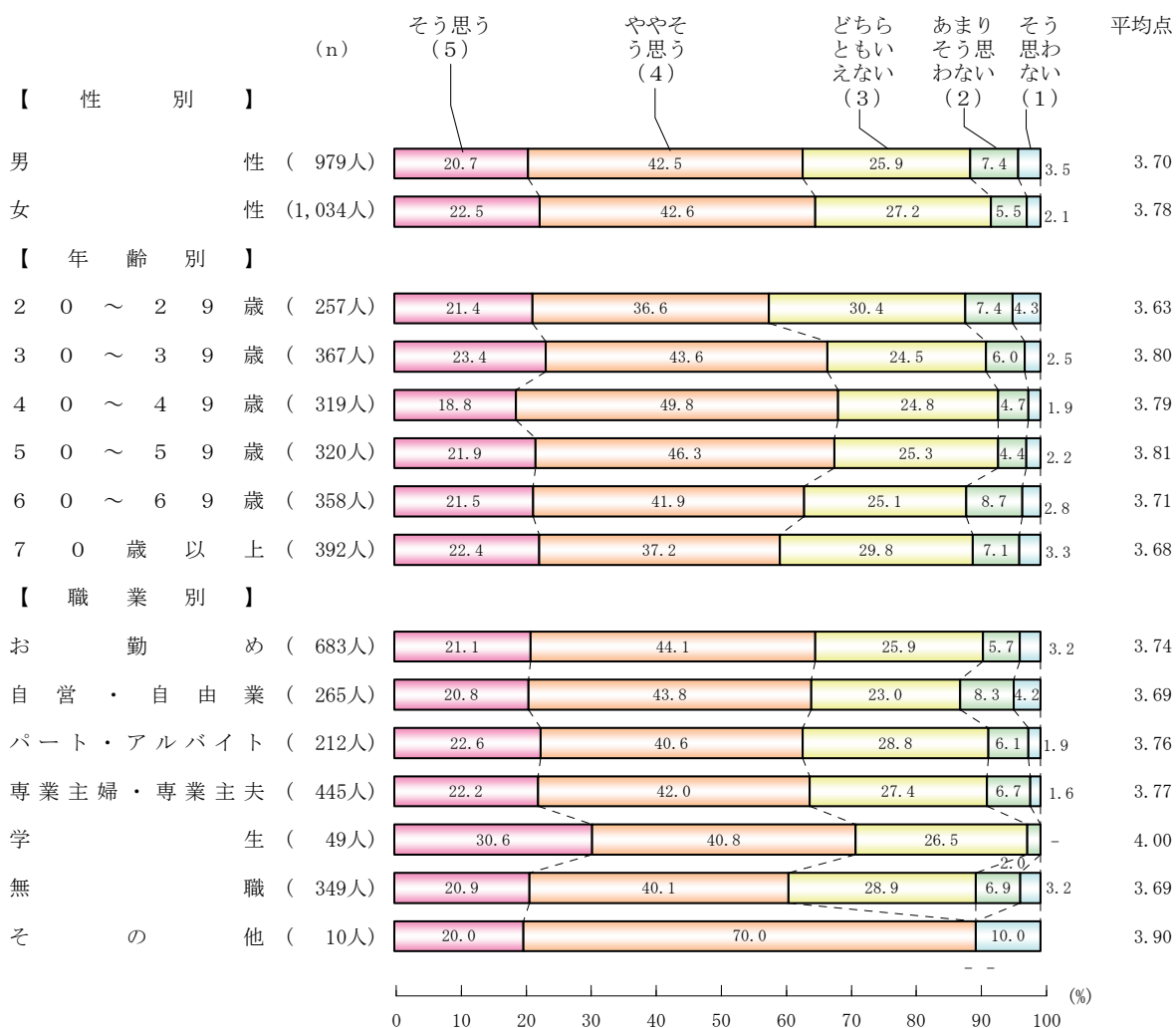


『裁判が迅速になった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別に大きな差はなく、年齢別にみると、20代で低くなっている。職業別にみると、無職で高くなっている。

Q7 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった



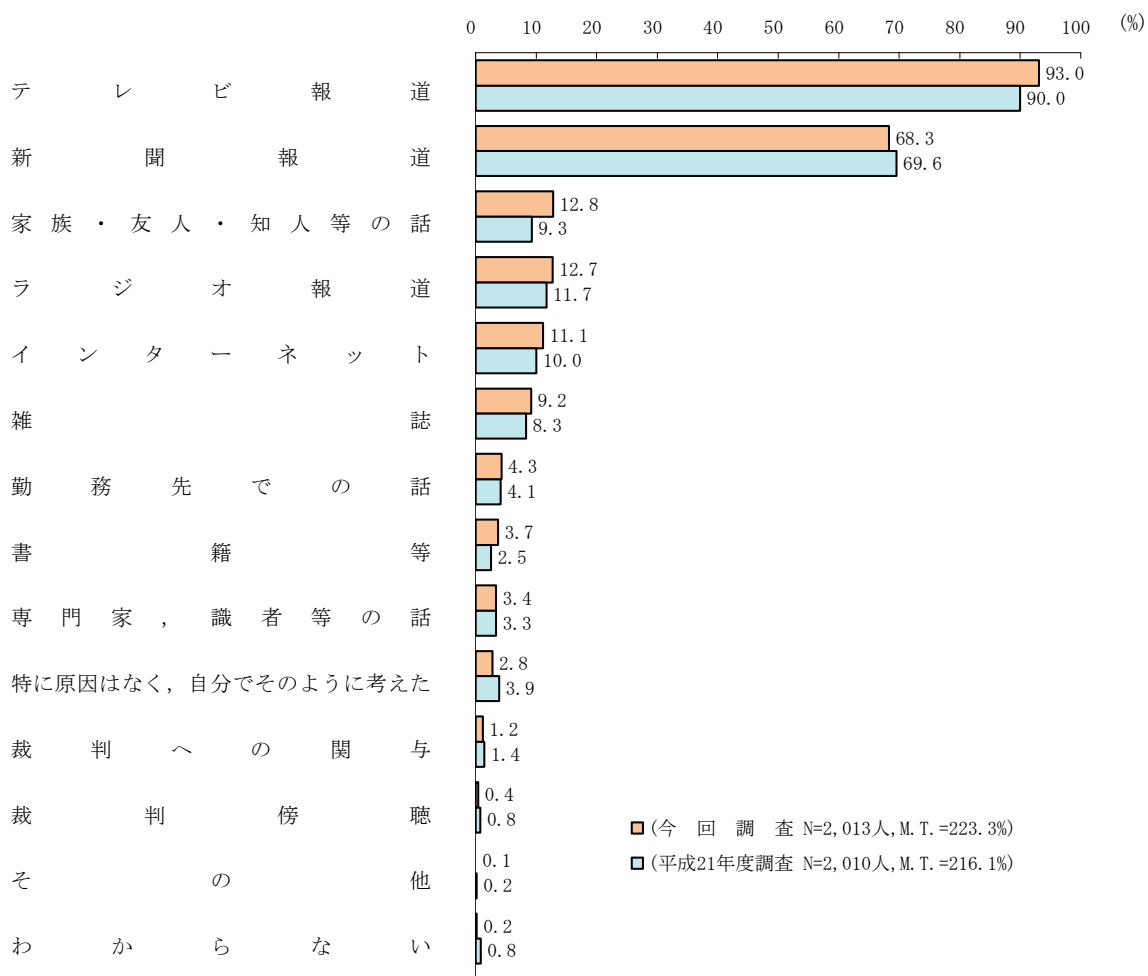
裁判員制度実施後の変化として『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は64.3%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は9.2%である。平成21年度調査と比べて、『そう思う』が5.2%増えている。



『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・職業別に目立った差はない。年齢別にみると、20代・70歳以上で低くなっている。

8 裁判員制度についてQ7の印象を持つことになった原因

Q8 [回答票8] あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)



現在実施されている裁判員制度についてQ7の印象を持つことになった原因を聞いたところ、「テレビ報道」が93.0%と最も高く、次いで「新聞報道」が68.3%であった。以下、「家族・友人・知人等の話」(12.8%)、「ラジオ報道」(12.7%)、「インターネット」(11.1%)となっている。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

	該当数 (n)	新聞報道	雑誌	書籍等	テレビ報道	ラジオ報道	インターネット	裁判への関与	裁判傍聴	家族・友人・知人等の話	勤務先での話	専門家、識者等の話	特に原因はなく、自分で そのように考えた	その他	わからない	回答計
F1【性】																
男性	979	71.6	10.6	4.2	91.9	14.3	15.3	1.4	0.5	9.6	6.1	3.4	3.1	0.1	0.1	232.3
女性	1034	65.2	7.8	3.2	94.1	11.2	7.2	1.0	0.4	15.9	2.6	3.4	2.5	0.1	0.3	214.8
F2【年齢】																
20～29歳	257	46.3	8.2	3.9	91.1	5.1	23.0	1.2	0.4	15.2	5.4	3.5	3.9	0.4	-	207.4
30～39歳	367	55.6	7.6	2.7	93.7	6.8	17.4	1.4	0.5	11.7	5.7	2.5	3.5	-	-	209.3
40～49歳	319	66.8	9.1	2.8	93.4	11.9	13.8	1.3	0.3	10.0	6.6	3.1	2.5	-	-	221.6
50～59歳	320	78.1	11.3	5.0	92.5	17.2	9.4	1.6	0.9	12.2	5.9	4.7	2.8	-	0.3	241.9
60～69歳	358	82.1	11.7	3.9	93.9	21.2	5.3	0.8	0.3	17.3	2.5	3.9	2.2	0.3	-	245.5
70歳以上	392	75.3	7.4	3.8	93.1	12.5	2.0	1.0	0.3	11.0	0.8	2.8	2.0	-	0.8	212.8
F3【職業】																
お勤め	683	66.3	10.0	3.2	93.4	11.3	17.7	1.9	0.7	11.0	10.1	3.1	2.3	0.1	0.1	231.3
自営・自由業	265	73.2	9.1	5.3	93.2	20.8	8.7	2.3	0.4	14.7	2.3	4.5	3.4	-	-	237.7
パート・アルバイト	212	58.5	6.1	3.3	94.3	7.1	10.8	-	-	13.7	2.8	2.8	2.8	-	0.5	202.8
専業主婦・専業主夫	445	69.0	6.5	2.7	92.4	11.5	4.9	1.1	0.4	14.8	0.4	4.0	2.9	-	0.4	211.2
学生	49	42.9	14.3	6.1	85.7	8.2	34.7	-	-	18.4	2.0	6.1	2.0	2.0	-	222.4
無職	349	77.1	12.0	4.6	93.4	14.9	4.9	-	0.3	10.9	0.9	2.3	2.9	-	-	224.1
その他	10	70.0	20.0	-	90.0	20.0	10.0	-	-	20.0	-	-	10.0	-	-	240.0

男女別にみると、「新聞報道」、「インターネット」は男性で高く、「家族・友人・知人等の話」は女性で高くなっている。年齢別にみると、「新聞報道」は50代以上で、「ラジオ報道」は50代・60代で、「インターネット」は20代・30代でそれぞれ高くなっている。